令和６年度　入学試験問題　小論文（国際地域学科）出題意図と解答例

〈出題意図〉

問題は〈問題文〉と〈資料〉によって構成されている。

〈問題文〉は、「個人化」が進んだ社会の実現とそれにともなって「人それぞれ」と呼べる状況が広く浸透していることとその問題性を、平易な文章で論じている。また〈資料〉は、中学校１年生の学校生活の中で生じる人間関係や自己意識の変化、出来事を通じた成長などを描いた小説であり、現代の児童生徒の実態を垣間見ることができる材料である。

〈問題文〉と〈資料〉で述べられている内容は、現代社会の人間関係や行動をめぐる実態や価値観への理解と、児童生徒の実態や発達について考える態度の涵養をめざす、函館校国際地域学科地域教育専攻の趣旨と合致する。

本問題によって、受験生が現代の社会や児童生徒について理解したり、教育現場の課題を考えたりする契機となることが期待される。

【設問１】

〈問題文〉の著者は図１および図２を使って、どのようなことを論じているのか説明しなさい。論述の際には、図１および図２が示す特徴を含めて、251 字以上 300 字以内で述べること。なお、英数字や記号は解答用紙１マスにつき２文字まで記述してよい。　（70 点）

〈解答例〉

図１は 1993 年から 2018 年にかけて結婚「するのが当然」と答えた人の割合が 45%から 27%へ減少した一方で、結婚「しなくてもよい」と答えた人の割合は 51%から 68%に増加したことを示している。図２は同じ時期に子どもを「もつのが当然」と答えた人の割合は 54%から 33%に減少した一方で、子どもを「もたなくてもよい」と答えた人の割合が 40%から 60%に増加したことを示している。この結果について著者は、社会から「標準」とされるライフコースが失われたことと、ライフスタイルの幅が広がってきたこと、そしてそういう社会は「人それぞれ」という言葉と強い親和性があると述べている。(267 字)

【設問２】

「個を尊重する社会」と「人それぞれの社会」の似ていることと異なっていることについて、問題文の主旨を踏まえ、126 字以上 150 字以内で説明しなさい。（80 点）

〈解答例〉

「個を尊重する社会」と「人それぞれの社会」とで似ていることは、相手の意向を尊重することや人に気を遣う社会であることだ。異なっていることは、「個を尊重する社会」は対立を避けずに意見を率直にぶつけ合う自由があるが、「人それぞれの社会」は対立を避けて、その場を穏便にやり過ごそうとすることである。（145 字）

【設問３】

なぜ「個を尊重する」からこそ「人それぞれ」に陥ってしまうのか、〈問題文〉の主旨にもとづいて説明しなさい。さらに、〈資料〉の登場人物「しほりん」の「レイミー」への関わり方は、「個を尊重する」からこそ「人それぞれ」に陥ってしまっているのかどうか、理由を含めて説明しなさい。なお、601字以上700字以内で述べること。（250点）

〈解答例〉

「個を尊重」するということは、個人が持った意見の選択や決定を尊重するということである。個人の意見が重視されるようになると、その意見について否定的な意見をなかなか言い出せなくなる。しかも、その意見を否定することは、個を尊重しない行為と解釈されかねない。そのため、個人の意見を否定しないように注意を払うようになる。つまり、相手の感情を損なう表現は避けつつ、その場を穏便にやり過ごそうとするようになる。これが、「個を尊重」するからこそ「人それぞれ」に陥ってしまうことである。

〈資料〉では、誰かがウェブサイトにレイミーがふしぎちゃんと呼ばれていることや、持っているねずみのぬいぐるみについての書き込みをしたという事件を描いている。このことにどう対応するか、教室の意見は〈犯人追及派〉と〈そこまでしない派〉に二分された。しほりんと千鶴は、レイミー本人の気持ちを大切にすべきだと考えた。レイミーの気持ちは、ぬいぐるみの名前を訂正することとねずみのぬいぐるみに謝罪してほしいということだった。その気持ちに対してしほりんと千鶴は「正気？　それ、ほんとにみんなに言うの？」と否定的な考えを言った。レイミーの気持ちをくみ取りながらも、レイミーに対して否定的な意見を述べたことに、「個の尊重」の可能性を読み取ることができる。しかし、結局はクラスメイトの前でレイミーの気持ちをそのまま伝えたことに、「人それぞれ」に陥ってしまう可能性を読み取ることができる。（617字）